

ちょっと気になる八王子マガジン

は ち と ぴ



2019年 涼風号

No.42

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



市内随一の大滝、上川町の金剛の滝（男滝）

特集

わがまち八王子 探訪シリーズ

「川口」

川口地域を深〜く知る！

“秋川街道散策コース”

檜原町～今熊山

見どころいっぱい「呼ばわり山」

川口地域を静かに見つめる今熊山

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑧

コラム 八王子の原風景⑧

私の本はこうして生まれた 其の四十二

NPO法人 街づくり上川

秋山国三郎の人形座の意義 佐藤 広

七国峠と出羽三山供養塔 馬場喜信

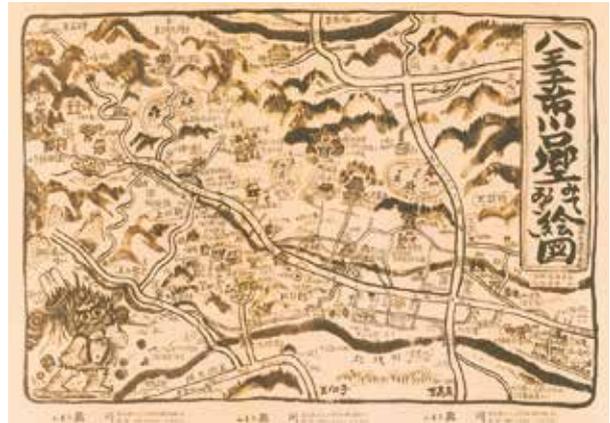
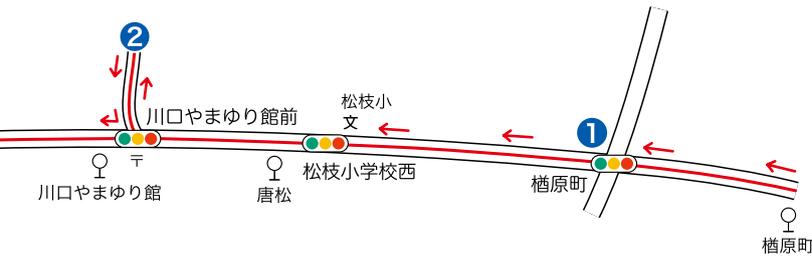
『ロックカフェという生き方 ―「アルカディア」の40年―』 高木 純 著

深〜く
★川口地域を知る!

“秋川街道散策コース”

八王子探訪シリーズの第2回は川口地域。榎原交差点から秋川街道を辿りつつ、今熊山までを目指すルートを設定しました。秋川と八王子をつなぐ道を歩きながら、川口地域の歴史に触れてみます。

はちとび
観光★
——特撰——



▲鮎川和菓子店で使用されている包み紙

- ◎参考文献
- ・川口地区の今 写真集2012編集委員会編『川口地区の今 写真集2012』
 - ・川口地区社教郷土史研究会十周年記念誌編集委員会編『川口の郷土史』

大福、酒饅頭、串団子など、手づくり和菓子を販売。初代店主は60余年和菓子をつくり続けている。「八王子市川口郷土みであるき絵図」を包み紙として使用する、地域に根ざした和菓子店。営業時間8時〜18時30分、定休日月曜。



③ 鮎川和菓子店



① 桑の試験場跡

1930(昭和5)年、桑の栽培技術に改良を加え、養蚕の合理化を図るために片倉工業の蚕桑試験場ができた。当初は桑の栽培を研究していたが、後に蚕の人工飼料の研究に切り替わっていった。現在はレストランとなり、当時の名残はない。

1884(明治17)年、不況で困窮する農民が、「川口困民党」を結成。下川口村の豪農塩野倉之助が首領となり、その屋敷が多摩北部困民党の拠点となった。現在は住宅地に囲まれており、屋敷内にあつたという御嶽神社のみが残っている。



④ 塩野倉之助屋敷跡碑



② 川口やまゆり館

1997(平成9)年開館。生涯学習センター、図書館、市民センターを併設した市の複合施設。生涯学習センターでは主催事業のほか、自主的なサークルも数多く活動していて、多様な講演会が行われている。



川口兵庫介館址入口標柱



次のページへGO!



車に気をつけてね!



7 とうふ工房三河屋

国産大豆100%、消泡剤なしのバリエーションに富むとうふをはじめ、油揚げ、がんもどきなど、揚げ物にも力を入れる。職人が製造するこだわりのとうふ店。営業時間10:00～18:00、定休日日曜・祭日。



5 安養寺

永和年間（1375～1379）開創。昭和の大戦に応召したまま還らぬ旧鐘を追慕し、1964（昭和39）年に鑄造された梵鐘が寺宝としてある。また、境内には橋本義夫らによって建立された困民党首領塩野倉之助の碑がある（はちとび39号参照）。

川口小学校近くの調井台と呼ばれる丘に1981（昭和56）年に建立。中世のころ、この丘に豪族として栄えた川口氏の館があった。碑の撰文は郷土史家の佐藤孝太郎、揮毫は奥住忠一。秋川街道沿いには入口の標柱も建っている（上部参照）。



8 川口兵庫介館址碑

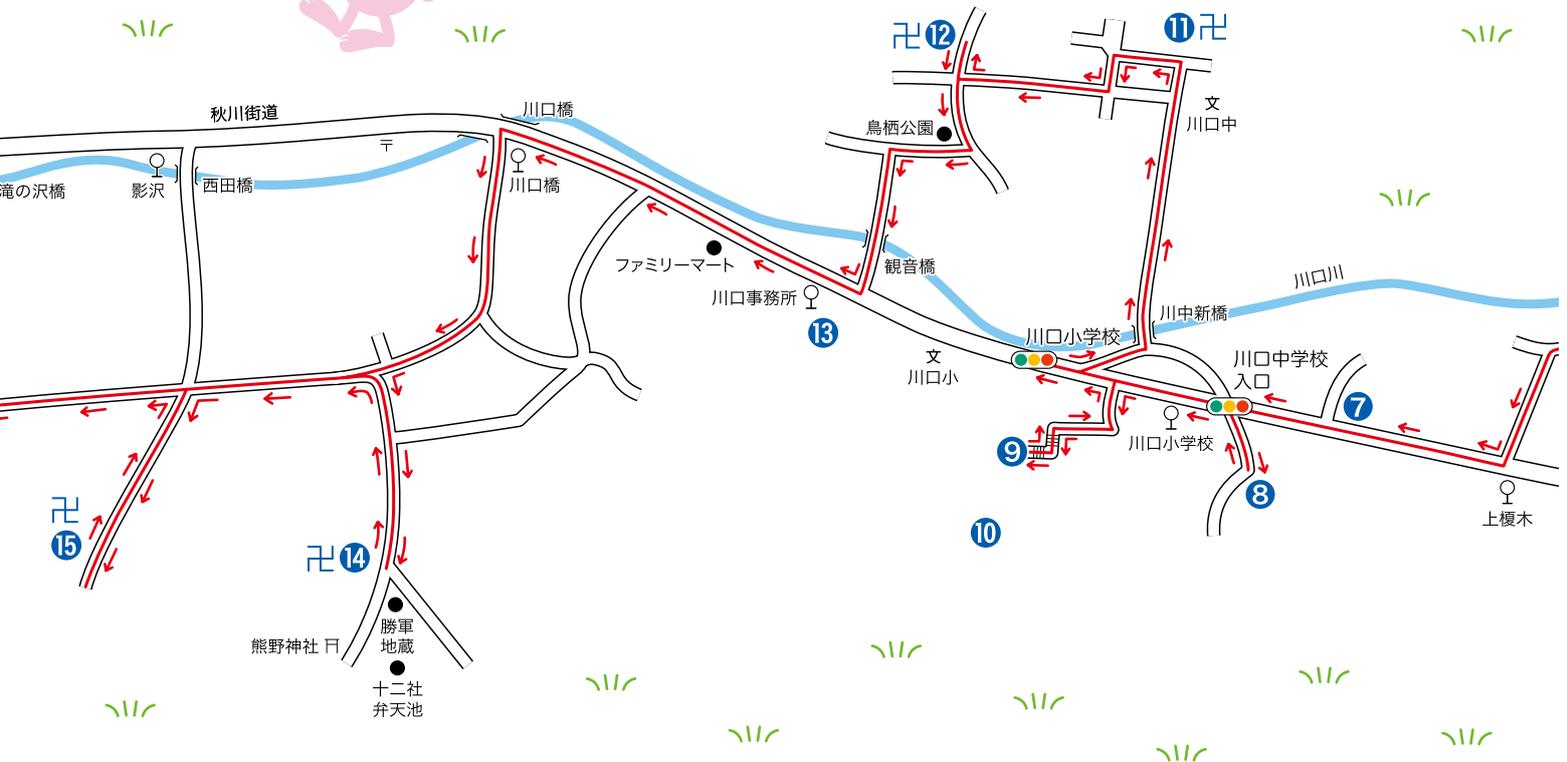


6 河井宗兵衛頌徳碑

川口村に生まれた2代目河井宗兵衛（1852～1910）は、耐寒性、品質ともに優れた裸麦の新品種「宗兵衛裸」を作り出した。その功績を讃えて橋本義夫が1952（昭和27）年に建立（はちとび40号参照）。



マイペースで
歩きましょう！



⑪ 法蓮寺

1304(嘉元2)年開創。市内に3か所ある時宗の寺院の1つ。「時衆」(後に「時宗」とは、毎日、時を定めて念仏修行を行ったことに由来する。境内には千人隊士、楠正重翁寿蔵の碑や千人隊組頭、原子剛の墓碑がある。



⑨ 川口忠霊塔

1942(昭和17)年、川口小学校裏山に建立。敗戦後、占領軍に忠霊塔が認められなかったため、塔柱を土の中に隠し、1951(昭和26)年に掘り起こして元に戻された。日清戦争から日露戦争、太平洋戦争まで211名の川口出身の戦没者名が刻まれている。



⑫ 長福寺

江戸時代の1625(寛永2)年ころ開創。秋口には2000株の萩が咲き、萩寺として知られる。本堂左側にある白萩堂には「子育て観音」と呼ばれる寺宝が安置。裏山にある鳥栖観音堂は古来火伏の観音と呼ばれ、信仰されてきた。



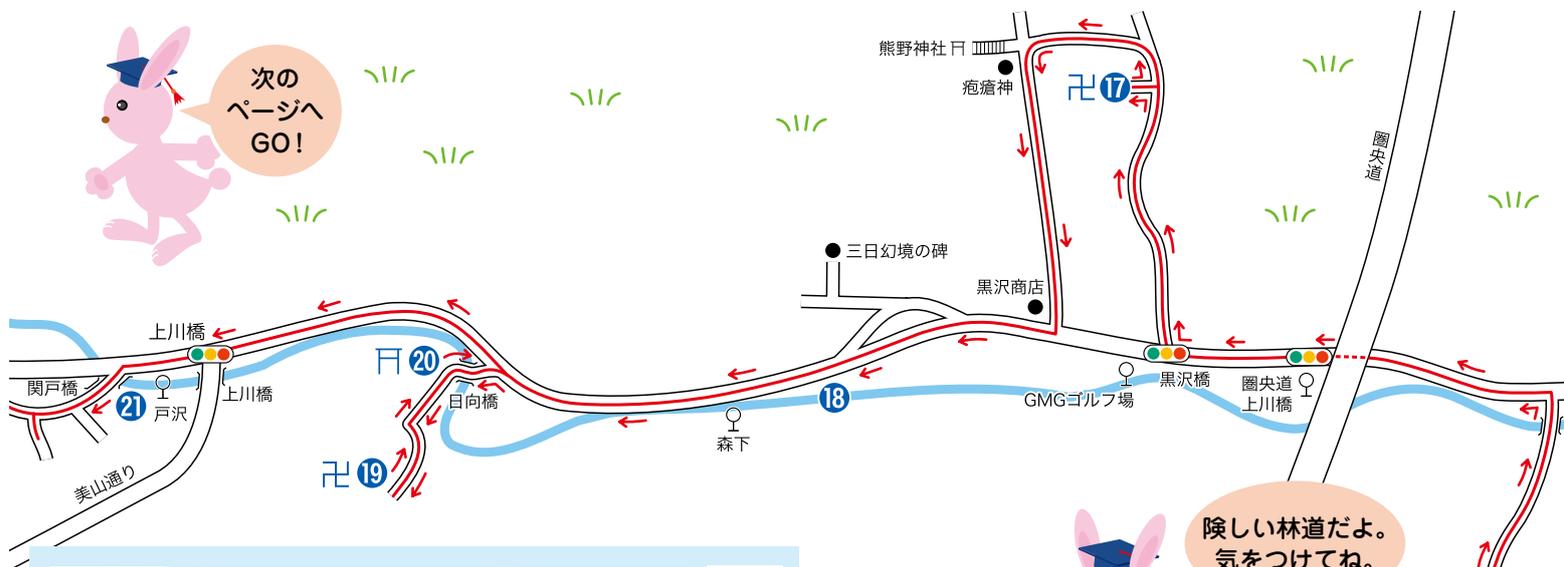
⑩ 宮田遺跡

川口小学校裏にあった縄文時代中期の遺跡。なかでも1968(昭和43)年に発見された「子抱き土偶」は、全国でも類をみない貴重なもの。現在は国立歴史民俗博物館に所蔵され、八王子市郷土資料館にレプリカが展示されている。

(写真提供：八王子市郷土資料館)



次のページへGO!



15 長楽寺

1187(文治3)年ころ開創。寺宝の薬師如来像は複数の木材を組み合わせた寄木造で、目に水晶をはめ込み、光背と蓮台を備えている。鎌倉時代中期につくられた八王子最古の仏像で、東京都指定有形文化財である。



険しい林道だよ。気をつけてね。



滝の沢地区を抜けた農道の奥に稲荷社があり、さらに険しい林道を上ると、鬱蒼とした杉林の先に大小2つの石像が建つ。1776(安永5)年、1896(明治29)年にそれぞれ造立された。市内で唯一の龍神、水神で、龍が剣に巻きつきながら、剣を飲み込もうとする姿を見せる。難道注意。



16 俱利伽羅不動尊



13 川口事務所

1955(昭和30)年、川口村が八王子市に合併された後、1981(昭和56)年に秋川街道北側から現在地に移転。そのときに現在の庁舎が建設された。川口市市民集会所、八王子市地域包括支援センター川口、地域福祉推進拠点川口を併設。

1222(貞応元)年に創建。1424(応永31)年から1430(永享2)年にかけて川口兵庫助が書写した「大般若経」がある。全600巻のうち、現存する寺宝の75巻が市重要文化財となっている。ほかにも「瞽女縁起及式目」や秋山国三郎の石碑もある。

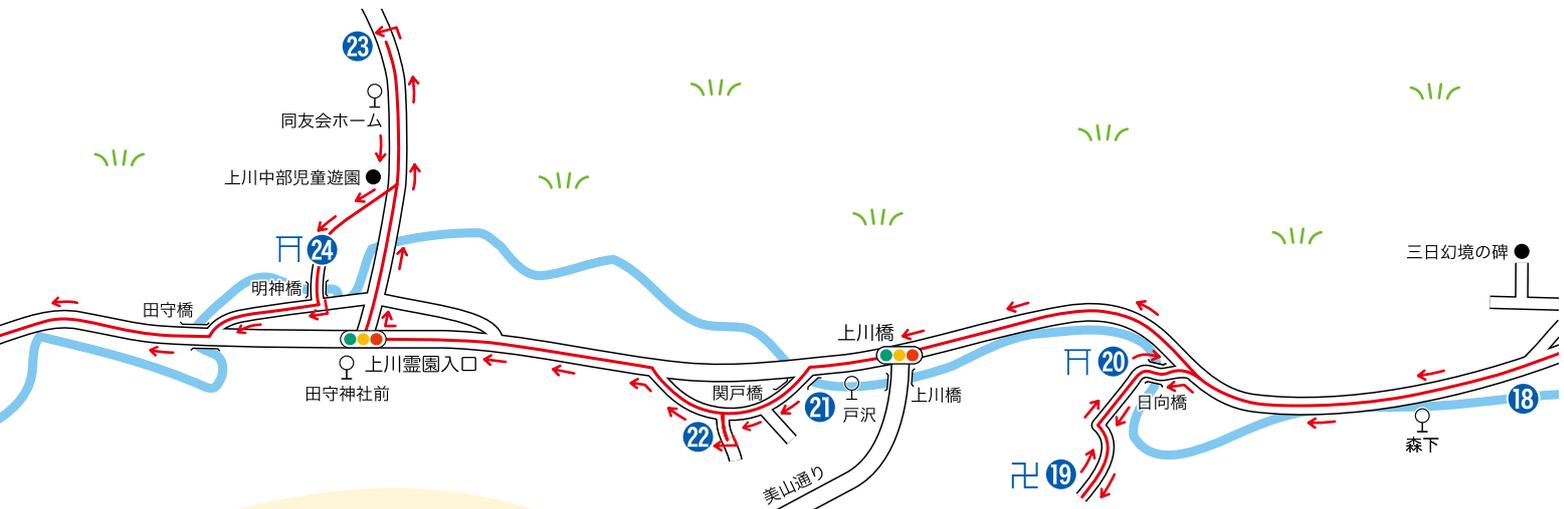


17 円福寺



14 龍正寺

1577(天正5)年ころ開創。本堂は江戸期の木造建築、本尊は釈迦如来。川口村出身の千人同心組頭、小谷田子寅の墓がある。小谷田は天文学、西洋学、医学などに優れ、剣は大平真鏡流を学ぶ。近くに熊野神社、勝軍地蔵、弁天池がある。



これは
すごい!



1977(昭和52)年、地元有志や歴史研究家が上川町東部会館横に建立。明治近代文学の先駆者北村透谷は、この地を「希望(ホープ)の故郷」と呼び、「幻境」の地と称した。近くの天神山には三日幻境の碑が建っている(はちとび9号参照)。



18 幻境の碑



上川町の水野文男さんが高校1年生から趣味で始めた爪楊枝アートを展示。お城や寺社、花など、爪楊枝で根気よく作られた作品の数々が並ぶ。水野さんがご在宅であれば、展示室内を見ることが出来る。

21 ようじアート展示室



1383(永徳3)年創建。市内に5か所ある天台宗の寺院の1つ。堂宇は江戸時代の火災、明治時代の暴風雨などで全壊し、1980(昭和55)年に再建された。山門には双龍の彫刻が施され、「あうんの呼吸」のいわれを表している。

19 三光院

天正年間(1573~1592)のころ開創。八王子三十三観音霊場第8番札所。現在の御堂は1910(明治43)年に再建。本尊のご開帳が12年に1度の午年に行われる。毎年8月第3日曜日の19時から護摩供法要が行われる。



22 戸沢馬頭観音堂

1887(明治20)年に熊野神社に八雲神社が合祀され、1909(明治42)年に現在地に鎮座。現在の社殿は1969(昭和44)年に再建された。幕末の幕臣、山岡鉄舟の社殿扁額のほか、厄除牛頭天王石塔、牛頭天王灯籠、疫神宮石塔などがある。



20 熊野神社



◎「川口」の縁起

八王子市の西北部に位置する川口地域。江戸時代の下川口村、上川口村、犬目村、榎原村、山入村が1889（明治22）年に合併して川口村となりました。

「川口」のルーツは平安中期にあるといわれています。平安時代中期に編纂された日本初の漢和辞典『和名類聚抄』には、武蔵国多摩郡に10郷の記述があり、そのなかの1つとして「川口郷（加波久知）」が記されています。

この地域を支配していたのが川口氏です。平安末期に川口に土着した初代信久が川口を名乗ってから、応永年間（1394～1428）の11代川口兵庫助幸季のころ、最も繁栄しました。現在、川口氏の館跡に石碑が建っています。また、1424（応永31）年から川口兵庫助幸季が書写した75巻の市重要文化財の「大般若経」が円福寺にあります。戦国時代になると、川口一族は四散し、500年にわたる川口郷統治の幕は閉じられました。

近代になり、1883（明治16）年には自由民権運動が高揚し、川口地域は近代文学の先駆者北村透谷が「希望（ホープ）の故郷」と称した地として、全国的に名が知られます。また、第4代八王子市長の秋山文太郎や、文人の秋山国三郎といった民権家が活発に活動していました。秋川街道は、古くから五日市や八王子などをつなぐ重要な道として、頻繁に往来されていたのです。

23 上川の里北沢谷戸



産廃処分場予定地が住民の反対運動で建設中止となり、都市における良好な自然環境となる緑地を保全するため市が整備した「上川の里特別緑地保全地区」の一角。「NPO法人街づくり上川」のメンバーが保全活動をしている（本誌P10参照）。

25 上川口小学校



（写真提供…伊藤勝之氏）

1875（明治8）年開校。2008（平成20）年より全校生徒で子ども獅子の成長を物語風につくった「上川子ども獅子」を踊るようになった。獅子頭などは生徒の手づくりで、低学年はささら、高学年が獅子舞を演じている（はちとび23号参照）。

24 田守神社



創建年代は不詳。順徳天皇時代（1210～1221年）、田の守護神として奉斎したとの伝承がある。江戸時代後期より「雨乞い獅子」ともいわれる「田守神社の獅子舞」が奉納され、現在は8月の最終日曜日開催されている（はちとび23号参照）。

26 上川農村環境改善センター



1984（昭和59）年開館。農業者や地域住民の生活改善や健康増進を図るための施設で、和室、会議室、多目的ホールがある。地元では「上川農事センター」「農事センター」の愛称で親しまれている。



川口地域を 静かに見つめる 今熊山

川口地域の最も奥深く、八王子の西端に海拔約505メートルの今熊山があります。川口川の源流でもあり、古くから「呼ばわり山」とも呼ばれてきた、川口地域を代表する山です。この今熊山の周辺にある見どころを辿ってみます。

●正福寺

秋川街道沿い、今熊山登山口バス停から新小峰トンネル方面に少し歩き、今熊神社入口の標柱で左折して道なりに5分ほど進むと、右手に正福寺が見えます。

正福寺は1364（貞治3）年の創建以来、明治維新まで今熊神社の別当寺として栄えました。現在の本堂は、1840（天保11）年に再建されたもので、向拝の上部には龍図が描かれています。

毎年8月の最終日曜日には地域の祭



▶正福寺本堂向拝上部の龍図

礼が行われ、寺に伝わる獅子舞が境内で舞われた後、今熊神社へ献納されます。この今熊神社獅子舞は五穀豊穰、悪魔退散、無病息災を目的としたもので、正福寺創建



▲正福寺

時に村民の娯楽として始められたと伝えられています。

●今熊神社

正福寺から、さらに15分ほど進むと見えてくるのが、今熊神社の遥拝殿です。社宝として、古鏡、刀剣、兜甲冑、神像木造（市文化財）1体があり

ます。

今熊神社の来歴にまつわる正式な古記録はありませんが、1346（正平元）年に熊野本宮大社を勧請したと伝えられ、社殿を造営した1364（貞治3）年に今熊野大権現と称し、1868（明治元）年に今熊神社と改称しています。今熊の「今」とは、古来より知られた紀州の熊野に対して、新しい熊野という意味を示しているといわれています。

山道を40分ほど登った山頂に鎮座するのが、今熊神社の本殿です。1942（昭和17）年の山火事で焼失後に、地元の人が資材を少しずつ背負って再建したという逸話が残っています。

●呼ばわり山

今熊山頂から川口地域は展望できませんが、空気の澄んだ日には東京スカイツリーも見えます。山腹には、川口地区町会連合会などにより植栽された約1



▲今熊神社本殿



▶今熊神社遥拝殿

八王子市川口郷土史研究会



◀秋の史跡巡りにて

●川口郷土史研究会事務局
上川町3160-9 車田勝彦方
☎ (654) 3101

(写真提供: 伊藤勝之氏)

川口郷土史研究会は、本誌で取り上げたような地域の歴史的名所をたどる郷土の見て歩きを毎年開催したり、会報を発行するなどして、川口地域の歴史を探求し続けている市民団体です。川口郷土史研究会の母体は1978年、川口地区社会教育推進協議会（川口地区社教）で発足した郷土史研究部でした。結成後すぐに「郷土の史跡見て歩き」を実施。翌年には会報「郷土史」を創刊し、以来、春・秋と年2回の地域探訪や年1回の会報発行を欠かすことなく続けてきました。また、1981年に建立された「史蹟 川口兵庫介館趾碑」建立にも貢献したほか、1988年には会の10周年を記念してB5判302ページにも及ぶ『川口の郷土史』を刊行。そして2002年に社教から独立して、現在の「八王子市川口郷土史研究会」に名称変更しました。



▲川口中学校の地域学習支援

なぜ40年の長きにわたって活発に活動を続けてこられたのかという問いに、事務長の車田勝彦さんは「郷土史」創刊号のある記事で答えます。そこには「郷土史」創刊前、会員にアンケートをとったところ、専門的な話よりも川口の歴史全体を知るために遺跡や社寺、文化財の見て歩きのようなものをしてほしいとの声が多数あったことが記されています。「研究という入りにくいのですが、歴史をより分かりやすく、親しみやすいものとして触れてもらう同好会のような雰囲気を保ってきたことが、長続きできた理由なのかもしれませんね」と言います。

一方、現在代表幹事を務める瀬沼秀雄さんは、創刊号に執筆して以来、長く会を見つめてきましたが、会の高齢化を今後の課題に挙げ、「会員数も段々と減ってきてしまったので、若い人が入って会を盛り立ててくれればいいのですが」と語ります。



▲郷土史講演会

そのためにも会では、生涯学習センター川口分館での郷土史講演会や、川口中学校での地域学習などに協力し、活動をさらに幅広いものにしようと奮闘しています。みなさんの努力の甲斐もあって、いまでは川口という地域に縛られず、市内他地域からも入会があるようです。もちろん、それも川口地域での地道な活動が評価されてきたからこそ。地域を支え、地域に支えられてきた成果が40年という会の歴史につながっているとと言えるでしょう。

500株のミツバツツジが植えられ、見ごろの4月中旬には、多くの人が訪れます。
ところで、今熊山は古来「呼ばわり山」と呼ばれ、山上で帰らぬ人の名を3回呼ぶと行方が分かれるといわれてきました。第27代安閑天皇の妃が熊野参詣の途中で行方不明となり、今熊神社で呼び戻しの祈願を行ったところ、行

方が判明したと伝えられたことに由来し、江戸時代後期ころには遠方からも参拝が続いたといえます。

●下山中の見どころ

本殿横の参道から山道を30分ほど下り、さらに谷底に下りると、金剛の滝（表紙参照）があります。

川上をたどると約4メートルの女滝、さらに修験者が手彫りでくり抜いたという隧道をくぐると、約18メートルの男滝が現れます。見栄え、落差など市内随一の大滝です。男滝の中ほどの岩場に約90センチの光明不動尊が祀られています。

再び山道を20分ほど下ると、いままでの山道が急に開けて近代的な景色が

目の前に広がります。幾重にも連なった電線と大きな機械が居並ぶ、東京都で唯一の屋外超高压変電所、東京電力新多摩変電所です。変電所の周囲を巡って麓に下りると、秋川街道に戻ります。

今熊は、歴史的遺物や自然環境など、見どころの多い川口の名所でもあるのです。



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

◆活動場所：上川の里（北沢谷戸）
◆問い合わせ：(654) 2200
(事務局長 高野誠三)

NPO法人 街づくり上川

地域が生まれ出す「街づくり」

上川町には「上川の里」と呼ばれる広大な緑地があります。2008年、この地に産業廃棄物最終処分場建設の計画が持ち上がる、と、団結した地元町会がすぐに反対同盟を結成し、デモ行進も行いました。結果、地元住民の努力によって業者は建設を断念。2011年には「上川の里特別緑地保全地区」を管理するために、上川東部・中部・西部各町会による任意団体「上川の里づくり運営委員会」が発足しました。これを母体として、2018年にNPO法人「街づくり上川」となり、緑地保全にとどまらず、地域活性化や環境教育事業にも取り組み始めました。「ここは良いところですからね。住民によって勝ち取った土地を、何とかして活かしたいという思いがありました」と語るのは、上川中部町会長を務められた高野誠三さん。



山ゆり植栽地の整備作業

会では北沢谷戸内の緑地整備のほか、遊歩道の巡視やトイレ清掃などに取り組んでいます。さらに緑地保全活動だけでなく、町内に新たな働き口を用意し、より多くの人に活躍してもらえような場所を提供しようとも計画しています。会は今までも町会の有志を中心に活動してきましたが、2019年から正会員という形でメンバーを募り始めました。現在は町内からの募集に限っていますが、今後は広く市民にも呼びかけていく予定です。「これから積極的にイベントを開催していきたい」と語る高野さん。産廃処分場反対運動から10年を迎えた今年、上川の里を拠点とした市民活動の新たな展開が期待されます。

【清水工房創業50周年記念企画】「はちとぴ」市民歴史講座のご案内

2019年、清水工房では1年を通じて八王子の歴史をたどることのできる「はちとぴ」市民歴史講座を実施中です。下記ご参照の上、ご興味・ご関心のある方は奮ってご応募ください。

講座スケジュール (2019年)

- 6月14日(金) 八王子城跡三ッ鱗会 松田健二氏「八王子城の歩き方 ― 北条氏と八王子城 ―」
- 8月23日(金) 八王子市川口郷土史研究会 岡村繁雄氏「八王子自由民権運動の底流」
- 10月18日(金) 齊藤勉氏「八王子と戦争」
- 12月13日(金) 佐藤広氏「民俗からみた八王子 ― 新八王子市史の成果から」

※講演内容、講師、会場は変更になる可能性があります。

時間 10:00 ~ 12:00

会場 八王子学園都市センターセミナー室
(八王子東急スクエアビル12F)

お申し込み方法

Step1 受付 まずは電話・郵便・FAX・メールなどで弊社までお申し込みください。

Step2 振込 弊社にて確認がとれましたら、同封の振込用紙にてお名前、ご連絡先を明記の上、ゆうちょ銀行の「はちとぴサポーターの会」口座(00110-4-0514170)までお振り込みをお願いいたします。

Step3 完了 参加証をお送りしますので、受講の際にお持ちください。

受講料 各回1,000円 ※欠席の場合の返金はありません。

◆先着順のため、定員になり次第、締め切らせていただきます。

揺籃社 〒192-0056 八王子市追分町10-4-101
(清水工房) ☎ 042-620-2615 FAX 042-620-2616 ✉ info@simizukobo.com